

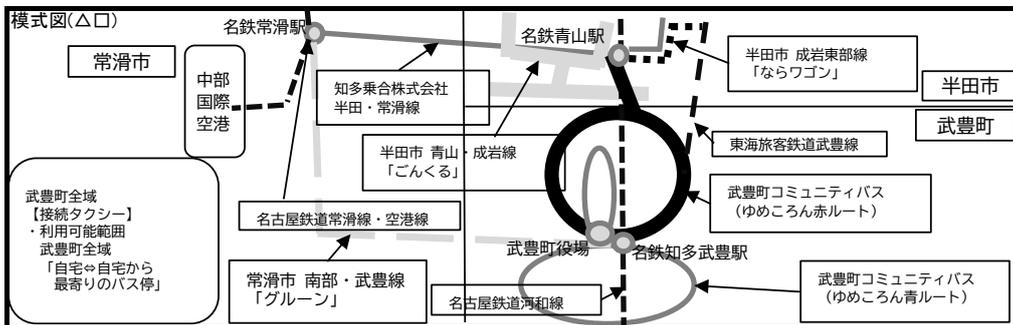
令和5年度補助系統別事業評価票(ゆめころん(赤ルート)線) 議案第1号

1. 補助システムの概要(Δ)

Table with 7 columns: System Name, Operator, Operator, Section, Mileage, Running Frequency, and Related City/Village. Row 1: ゆめころん(赤ルート), 武豊町, 知多乗合, 武豊町役場~イオン半田店~武豊町役場, 12.8 km, 9.0回, 半田市 武豊町 0 0.

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(Δ□)
<接続する系統>
名古屋鉄道河和線、東海旅客鉄道武豊線
半田市 青山・成岩線「ごんくる」
半田市 成岩東部線「ならわゴン」
知多乗合株式会社「半田・常滑線」
知多乗合株式会社「半田・常滑線」
常滑市 南部・武豊線「グルーン」
<接続される系統>
武豊町コミュニティバス(ゆめころん青ルート)
武豊町接続タクシー(令和4年10月改編実施・利用可能範囲を「自宅⇄自宅から最寄りのバス停」に変更)



2. R5年度の運行状況

事業実施の適切性
計画どおり運行されたか(Δ)
評価: 計画どおりか。そうでない場合は理由
A: 補助対象期間の開始日から、天候等による影響以外での運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

詳細の基準<事業実施の適切性>
A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B: 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合
詳細の基準<目標・効果達成状況>
A: 年間目標利用者数を達成できた場合
B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合
B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合
C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

《参考数値》 主要指標の推移(Δ)
Table with 6 columns: Year, Annual Users, Average Density, Volume, Revenue Ratio.
年度: 元年度, 2年度, 3年度, 4年度, 5年度
年間利用者数【人】: 49,230, 39,436, 39,655, 41,667, 50,361
平均乗車密度(実績): 4.1, 2.1, 1.9, 5.4, 6.1
輸送量(計画): 32.4, 21.1, 36.9, 18.4, 16.7
輸送量(実績): 44.2, 18.4, 16.7, 48.6, 53.6
収支率(実績): 27.00, 12.30, 9.40, 37.69, 23.15

目標・効果達成状況
評価: A
目標の達成状況(Δ)
目標: 43,000
実績: 50,361
達成率: 117.1%
市町村の所見、理由分析、認識(Δ)
市町村名: 半田市, 武豊町
市町村の所見、理由分析、認識(□)
市町村名: 半田市, 武豊町
運行事業者の所見等(Δ)
平成30年10月からの赤ルート名鉄青山駅への乗り入れ、令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業により、利用の定着と利用者数の確保に繋がっている。特に、大型商業施設(イオン半田店)や名鉄青山駅の乗降者数は他の停留所と比べて多いため、特に利用者数の維持・確保に必要な停留所として位置づけられる。新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も着実に回復し、令和5年9月の利用者数は月利用者数が過去最高値となっている。

複数市町村を跨ぐ系統としての役割
指標(市町村を跨いでの利用)
市町村を跨ぐ利用者数(Δ): 1,891 人/月
全利用者に占める率(Δ): 22.5 %
住民の利用状況(□)
市町村名: 半田市, 武豊町, 0, 0

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(Δ)
沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R5年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		市町村の取組(□)					
A	事業評価を踏まえ	運営主体の取組(△)	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0	
		改善点とした事項(△)	・令和5年10月が高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、利用の定着と利用者数の確保に繋がっているため、継続実施している。 ・市内各会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを実施し、安全・安心な利用に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを継続した。」 ・令和5年9月中旬、利用者の満足度や要望等を確認するため、利用アンケートを実施(集計中) ・町広域や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを実施し、安全・安心な利用に努めた。」 ・令和5年9月中旬、利用者の満足度や要望等を確認するため、利用アンケートを実施(集計中) ・町広域や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを実施し、安全・安心な利用に努めた。」 ・令和5年9月中旬、利用者の満足度や要望等を確認するため、利用アンケートを実施(集計中) ・町広域や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを実施し、安全・安心な利用に努めた。」 ・令和5年9月中旬、利用者の満足度や要望等を確認するため、利用アンケートを実施(集計中) ・町広域や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	・高年齢者や高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、継続実施している。 ・新型コロナウイルス感染症の第5期以降は、「車内会館を投入する「マスク着用」の案内表示による呼びかけを実施し、安全・安心な利用に努めた。」 ・令和5年9月中旬、利用者の満足度や要望等を確認するため、利用アンケートを実施(集計中) ・町広域や令和4年10月に新たに作成した、時刻表の全戸配布による情報発信。 ・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。
		関係者の連携等(△□)	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と定例会実施及び産業界等との連携に関するアンケート調査を実施。	

4. 今後の課題

課題と認識している事項		沿線市町村(□)			
運営主体(△)	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0
		引き続き、利用者が安心してバス利用できる環境を整備する必要がある。 青山駅は半田市2路線、武豊町1路線、民間1路線の計4線の乗継拠点となっているため、乗り継ぎに関する情報発信を強化する必要がある。 R7春の市立病院移転に向けて、路線再編を検討するとともに、関連路線との接続を見直す必要がある。	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応
運行事業者(△)					
高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業の更なる周知による利用の定着と利用者数の確保。更なる利用者数確保のため、無料対象者以外の層(若年層)に対する利用を促すPR。キャッシュレス決済等、時代の変化への対応。					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組		市町村の取組(□)			
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0
		①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス」(不定期)による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス」(不定期)による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス」(不定期)による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス」(不定期)による情報発信 ・運転免許証の自主返納の呼びかけ ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・時刻表の配布(継続) ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施
R6年度、R7年度に行う取組		バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策を目的に、引き続き、コミュニティバス車内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施する。 停留所の利用需要や、市内情勢を考慮して、停留所の新設や、経路の変更を検討する。			

注: 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

		沿線市町村(□)			
目標	市町村名: 半田市	市町村名: 武豊町	市町村名: 0	市町村名: 0	
自己評価	R6末に市内全路線バス利用者数1,300人/日 目標値に近接しないものの、令和5年度「R4」の乗車者コミュニティバス利用者数は、4か月間(R4.11-R5.2)実施した市内8路線無料乗車券キャンペーンや、親しみやすい車内デザイン導入等、日々の情報発信、利用促進に取り組んだ結果、地区路線に比べ、107,596人、地区路線で20.01%と過去最高乗車人数を記録した。 ※過去最高値: 地区路線に比べ 79,287人(R3.10-R4.9) 地区路線 14,679人(R3.10-R4.9)	〈指標〉コミュニティバスの利用者数 〈目標値〉令和7年度: 72,000人/年(4月~3月年度) コミュニティバスの利用者数は、R4から今年度(令和5年度)の67,322人から今年度(R04.10-R05.09)は77,094人となり、前年度及び利用者目標値を大きく上回った。赤ルート(地域間幹線系統)、青ルート(フィーダー系統)共に過去最多の乗車人数を記録している。 引き続き、確保維持に努め、情報発信や利用促進等の事業実施を図る。			

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

		沿線市町村(□)			
市町村名:	半田市	市町村名:	武豊町	市町村名:	0
半田市地区路線バスにぐる青山・成岩線が「青山駅」および「イオン半田店」バス停で接続している。2018年10月の新設以降右肩上がりで推移していた同線は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う外出制限等により、R2に続きR3の利用者数も対前年比で減少したものの、上述のとおり、武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により、R4以降は回復しており、R5に過去最高乗車人数を記録した。	・高齢者への無料乗車券交付事業等により利用者数は増加しており、フィーダー系統である青ルートの令和5年9月の利用者数は過去最多となった。 ・令和4年10月に青ルートは路線を延伸、コミュニティバスを補う交通手段である接続タクシーは制度改正した。				

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください